

鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）財務書類について

令和5(2023)年6月

このレポートは、鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）のオープン4年目にあたる令和3(2021)年度の財務状況について、民間企業会計の手法にならない、総務省が定めた「統一的な基準による地方公会計制度」（新公会計制度）に基づいて作成した財務書類の概要をお伝えするものです。

これまでの官庁会計による決算だけではわかりにくい資産・負債などのストック情報や、減価償却費等を加えたコスト情報を明確にすることで、市民の皆さんへの説明責任の充実や、マネジメントの強化を今後も図ってまいります。

1 施設の概要



荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）大ホール
（写真提供 鶴岡市教育委員会）

【施設の名称】

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
ネーミングライツパートナーを(株)荘内銀行とし、通称を「荘銀タクト鶴岡」としています。

【土地や建物】

- 敷地面積：13,096.84㎡
- 延床面積：7,846.12㎡
- 構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、杭基礎
- 整備総事業費：96億7,600万円
- 建築面積：5,756.35㎡

【建物内の設備】

- 客席数 大ホール：固定1,120席、多目的鑑賞室：15席
- 貸室 小ホール、練習室、会議室、楽屋、託児室

【開設の時期】

- グランドオープン 平成30年(2018)年4月

2 施設の稼働状況 令和3(2021)年度

【自主事業】

- 開催事業：17件（前年度10件）
事業内容：右表のとおり
- 入場者合計 7,661人（前年度2,347人）

【貸館事業】

- 利用件数：285件（前年度168件）
主な利用：市内小中学校の合同音楽会や、高校吹奏楽部の演奏会、などの市民利用
- 利用者合計 39,949人（前年度39,613人）

【その他】

- 市民サポーター登録者数：39名

主な自主事業名 (入場者数500人以上の事業)	実施年月日	入場者数 (人)
劇団四季 The Bridge ～歌の架け橋～	R3.9.27	969
陸上自衛隊中央音楽隊 鶴岡公演	R3.10.2	1,033
高嶋ちさ子 with Super Cellists	R3.10.13	1,039
スターダスト☆レビュー40周年ライブツアー	R3.10.17	672
新日本フィルハーモニー交響楽団 鶴岡公演	R3.10.29	516
魂のピアニスト フジコ・ヘミング ピアノソロコンサート2021	R3.11.23	1,043
タクトでつなぐ第3回ピアノリレーコンサート	R3.12.25 ～26	535

資産と負債 (賃借対照表)

資産 83億7,500万円 (前年度 85億9,400万円) 主な内訳 ●土地 2億2,600万円 ●建物等 81億2,400万円 ●物品等 2,500万円	負債 54億6,800万円 (前年度 60億5,800万円) 主な内訳 ●建設費に充てた市債 54億6,800万円
純資産 29億700万円 (前年度 25億3,600万円)	

令和4(2022)年3月31日現在

【資産について】

土地建物や物品(ピアノや緞帳、舞台道具)など、事業用の固定資産が、その大半を占めています。

【負債について】

建設費に充てた市債の償還残高が、その大半を占めています。

【純資産について】

資産と負債の差であり、債務なく将来世代へと引き継がれる、純粋な市民の資産にあたります。

【参考指標】 市民一人当たりの 資産と負債

資産 69,007円 (前年69,787円)	負債 45,054円 (前年49,193円)
純資産 23,953円 (前年20,594円)	

鶴岡市の人口
121,365人
(令和4(2022)年3月31日現在 住民基本台帳)

【参考指標】

有形固定資産減価償却率 9.8% (前年度7.4%)
～耐用年数に対してどのくらい老朽化が進んでいるか

算式：減価償却累計額/有形固定資産(土地等の非償却資産除く)+減価償却累計額

➤建物の耐用年数は、財務書類の作成基準上、50年と設定されています。竣工から間もないため低水準ですが、減価償却が進むことで、今後徐々に上昇していきます。

➤今後の見通し

資産は、建物や物品の減価償却が進むことで徐々に減となりますが、負債についても、市債が15年間で償還されていく予定であることから、それを上回る早さで減となることが見込まれます。

この結果、純資産の形成が進むこととなりますが、建物や設備の経年劣化に計画的に対応し、市民の資産としての価値を保つために、適切に維持補修を図ってまいります。

費用と収益 (行政コスト計算書)

科目名	金額(千円)	前年度(千円)
経常費用	432,598	408,454
人件費 運営にあたる職員の給与等	0	38,538
物件費等 自主事業費、維持補修費等	202,959	138,875
減価償却費	219,391	219,797
支払利息 建設費に充てた市債の利払い	10,248	11,206
その他	0	38
経常収益	35,099	18,663
使用料 チケット代、貸館収入等	29,879	11,993
その他	5,220	6,670
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	397,499	389,791
臨時損失 災害復旧事業費など	-	-
臨時利益 資産売却益など	-	-
純行政コスト	397,499	389,791

【経常費用について】

自主事業等に係る経費は、令和3年度から指定管理委託への移行に伴う委託料の増に加え、自主事業を前年より活発に行ったことから、前年比約6,400万円増額となっています。人件費は指定管理となったことに伴い、皆減となっています。

【経常収益について】

自主事業によるチケット代収入等が増額となったことにより、前年比で約1,600万円の増となっています。

【純行政コストについて】

経常収支と臨時収支の合計額で、文化会館の運営にあたり、市が負担しているコストにあたります。

【参考指標】

市民一人当たりのコスト 3,275円 (前年度3,165円)

算式：純行政コスト/住民基本台帳人口 (121,365人※)
※令和4(2022)年3月31日現在

【参考指標】

受益者負担比率 8.1% (前年度4.6%)
～費用はどのくらい収益でまかなわれているか

算式：経常収益/経常費用

➤今後の見通し

令和3(2021)年度から指定管理委託による運営に移行しました。経常収支の改善、純行政コストの削減など、運営のさらなる効率化を図ってまいります。